

OTOGAWA

おとがわプロジェクトとは——愛知県岡崎市を舞台に、2015年から2020年までの5年間、「乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン基本構想」をもとに、主要回遊動線「QRUWA(くるわ)」を中心として、4つの「関連する主要なまちづくり」を組み合わせながらエリアの再生を図るプロジェクトです。

 おとがわプロジェクト 

自分たちの
まちが
できるまで

GRAND DESIGN

OTOGAWA
PROJECT

乙川リバーフロント地区の
まちづくり3年目の
取り組みを収録。

戦略

QRUWA

【特集】

CONTENTS

02	PROJECT SUMMARY 2017年度乙川リバーフロント地区のまちづくり
03	STRATEGY QURUWA戦略
06	FORUM QURUWAの未来の歩き方
07	SOCIAL EXPERIMENT MeguruQuruwa
11	WORKSHOP 公共空間活用に向けた子育てワークショップ
12	FORUM 動き出すQURUWA
14	PROGRAM おとがわインターランド、岡崎泰平の祈り、 「アウトドアリビングな風景をつくる」
15	CONFERENCE 3つの会議体

Vol.

プロジェクトサマリー

2017年度 乙川リバーフロント 地区の まちづくり

2018年3月21日、乙川リバーフロントフォーラムで、「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画（QRUWA戦略）」が公表されました。QRUWA戦略策定に至る3年目の動きをお伝えします。

QRUWA戦略ができるまで

2017年2月に行われた「まちのトレジャーハンティング@岡崎」では、QRUWAの将来像とそこに至るアプローチのイメージが示されました。しかし、施策としての後ろ盾がある訳ではなく、いかにそれらを具体化し、実現するための道筋をつけるかが3年目の課題でした。そこで2017年度は、これまでのアイデアや

実践、課題などを総ざらいし、主要回遊動線QRUWA上の各エリアの定義や将来像、各エリアの活性化の核となる拠点を設定し、公民連携により活性化していくプロセスと具体的なプロジェクト（QRUWAプロジェクト）を盛り込んだ「QRUWA戦略」【→→P.03】を策定することで、公民が立場を超えて、まちの課題と目指すべきまちの姿を共有し、それらを踏まえて役割分担しながら進んでいくための道しるべをつくることが主要な目的となりました。

そのために2017年度は、①仮説の設定、②仮説に基づく社会実験の実施、③検証、④QRUWA戦略の策定というプロセスが取られました。

『①仮説の設定』の段階として、デザイン会議・公民連携調整会議及び推進会議【→→P.15】において、各エリアの課題や定義、将来像が検討され、それらに基づいて社会実験に参加する市民を募り「公共空間活用の担い手育成ワークショップ」が実施されました【→→P.11】。9月、社会実験のプログラム実施者らと共に将来実現したいまちの姿の仮説が、乙川リバーフロントフォーラム「QRUWAの未来の歩き方」で発表され【→→P.06】、その仮説を検証する『②社会実験「MeguruQuruwa」』が10月

に実施されました【→→P.07】。当日はあいにくの雨でしたが、QRUWA上の公共空間（乙川河川敷、中央緑道、籠田公園、連尺通り、りぶら前・シビコ西広場）を使い、予定されていた55のプログラム中36が実施され、3,000名を上回る来場者により、回遊が生まれるか、まちが魅力的になるかが検証されました。『③社会実験の成果』として、プログラム実施者の高い満足度と継続実施に向けたモチベーション、プログラムが展開されたQRUWA上の回遊性の向上と来場者のプログラムに対する評価などから、その有用性が実証されました。なお、乙川河川敷では前年度から引き続き水辺を有効活用する社会実験「おとがワ!ンダーランド」、QRUWA上の広場や公園といった公共空間の活用の可能性を啓発する実践的取り組み「アウトドアリビングな風景をつくろう!」なども並行して行われました【→→P.14】。

こうして社会実験等により裏付けられた仮説を基に、『④QRUWA戦略が策定』され、3月、乙川リバーフロントフォーラム「動き出す、QRUWA」【→→P.12】で公表されるに至ったのです。

乙川リバーフロント地区 公民連携まちづくり基本計画

QRUWA 戦略

2015年度から取り組んできた「まちづくりワークショップ」、「まちのトレジャーハンティング」等の市民ワークショップでの提案を受け、「おとがワ!ンダーランド」、「MeguruQuruwa」等の社会実験を行ってきました。これらを踏まえ、まちの新しい暮らし方、働き方、遊び方を実現するための道しるべとなる「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画（QRUWA戦略）」に迫ります。

QRUWA戦略とは

乙川リバーフロント地区内の豊富な公共空間を活用して、パブリックマインドを持つ民間を引き込む公民連携プロジェクト（QRUWAプロジェクト）を実施することにより、その回遊性を実現させ、波及効果として、まちの活性化（暮らしの質の向上・エリアの価値向上）を図る戦略です。

QRUWA戦略の目的

岡崎市の都市経営は、人口減少化社会の中で税収減や歳出増大が将来想定されており、乙川リバーフロント地区では、康生地区の衰退、高齢化の進展、まちの魅力の希薄化、働き方・雇用の多様性の欠如などの対策が課題となっています。これらに対応するため、従来の観光資源に加えて、市民・来街者に新たな交流・体験を通じた「良質な都市空間を楽しむ日常」と「暮らしやすいまち」を創り出し、観光産業都市の創造を図ることを目的としています。

公民連携手法の導入

財源が限られる中、都市経営の自立・継続と豊かな公共の実現が課題になっています。公共サービスでは、行政だけでおこなうのではなく、民間も公共サービスの担い手として期待が高まっており、行政と民間が志と責任・権限を持ち、役割分担をしながら連携し、地域が抱える多くの課題を解決するとともに、公共サービスの受益最大化を図る取り組みです。

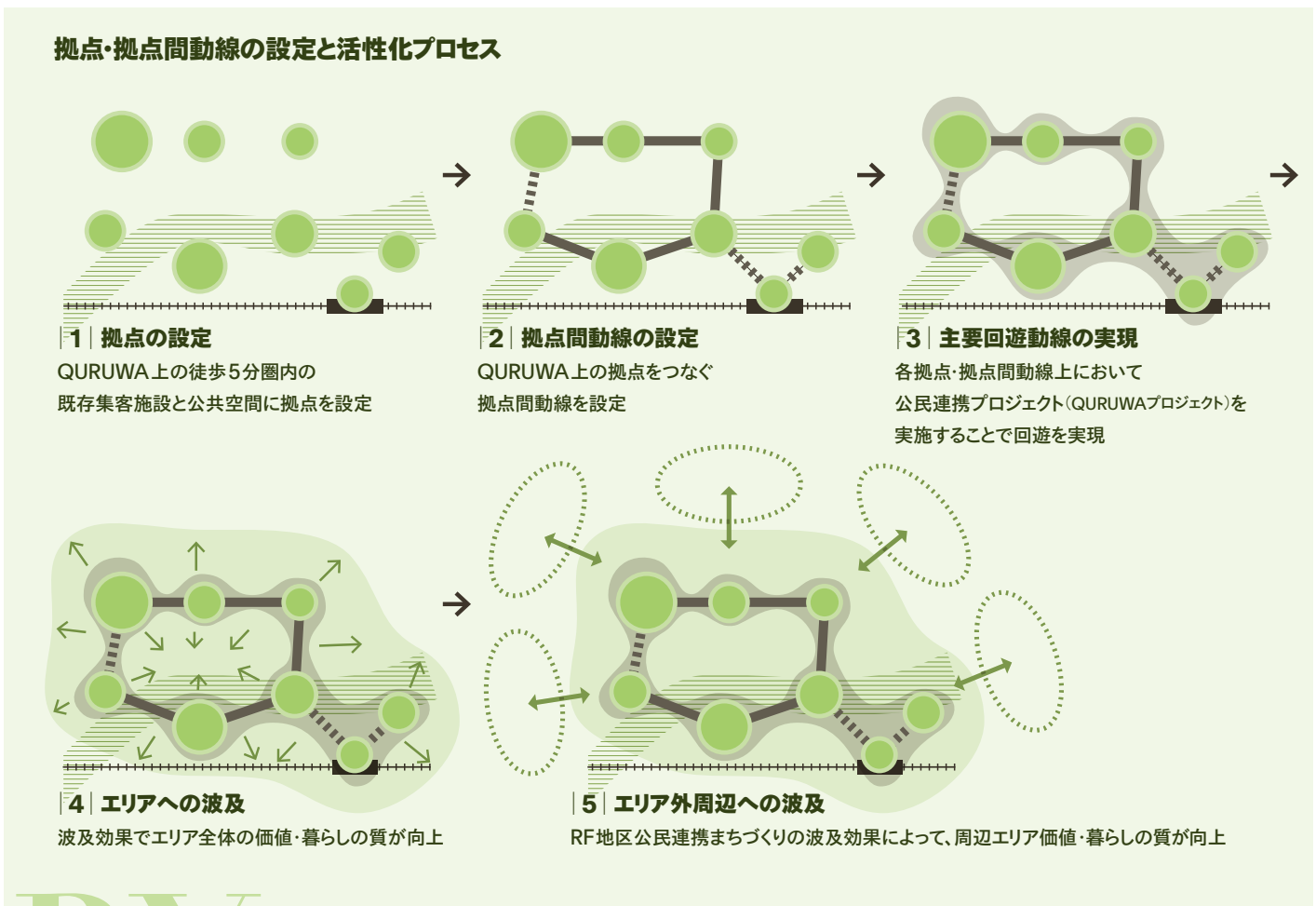
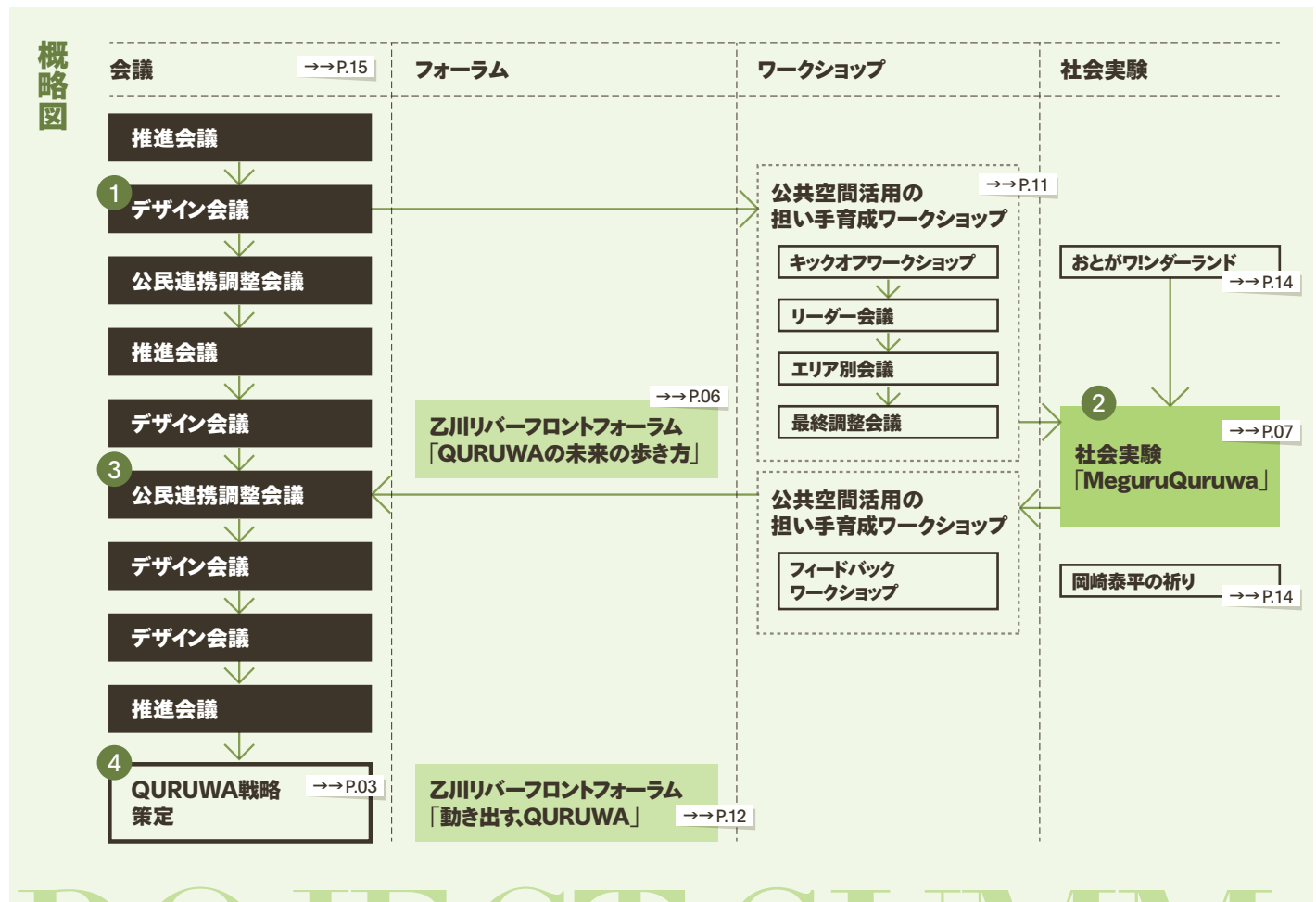
行政と「事業者市民」の連携

行政は、規制緩和や制度改正などによるビジネスのしやすい環境の整備と、行政の継続性

リスクへの対処を行います。そして公民連携のパートナーとなる民間は、公共性・公益性と、持続できる事業性を兼ね備えた公民連携事業を行う市民を必要とし、これを事業者市民と位置づけました。この担い手が重要となり、パブリックマインドを持つ様々な民間がこの担い手となり得ます。

岡崎市が地方再生の モデル都市に選ばれました

国土交通省と内閣府が連携し、都市のコンパクト化と地域の稼ぐ力の向上に、ハード・ソフト両面から総合的に取り組む地方再生のモデル都市として、岡崎市が選定されました。また、本市の取り組みとして、乙川リバーフロント地区でのQRUWA戦略がモデル事業に選定されました。これにより、乙川リバーフロント地区では、平成30年度から3年間、社会資本整備総合交付金、地方創生推進交付金などでのハード、ソフト事業に集中的支援が受けられます。



乙川リバーフロント地区 公民連携まちづくり基本計画

QURUWA プロジェクト

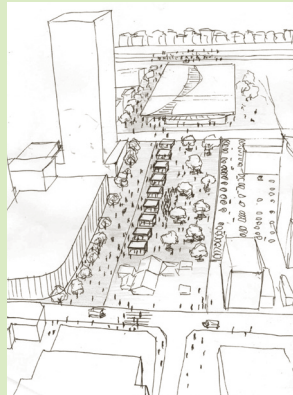
主要回遊動線QURUWA上に設定された8つの拠点とそれをつなぐ拠点間動線において、公民連携によって暮らしの質を高めたり魅力的な公共サービスや都市空間づくりを実現する、7つの「QURUWAプロジェクト」が進行中です。

*QPはQURUWAプロジェクトの略称

QP-6

PPP活用拠点形成事業 (暫定駐車場)

図書館交流プラザ「りぶら」東側に有する約11,000m²もの駐車場や広場などの公的不動産を活かした公民連携事業により、まちと「りぶら」を繋ぐプロジェクト

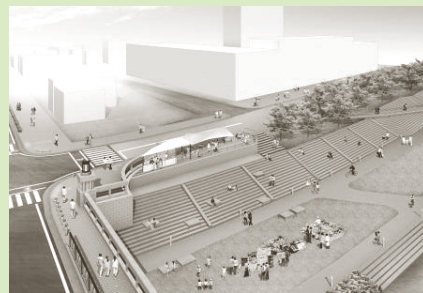


2017まちの
トレジャー
ハンティング
りぶら前の
市民提案
イメージ

QP-4

乙川かわまちづくり事業

規制緩和により実現した河川空間での観光船運航や殿橋テラスにおけるカフェなど、様々な民間事業が連携するプロジェクト



殿橋テラス含むかわまちづくり事業イメージ

QP-1

PPP活用拠点形成事業 (太陽の城跡地)

約8,000m²の市有地で事業用定期借地などによりシティーホテル、コンベンション、リバーベースを民間一体的整備するまちの拠点形成プロジェクト

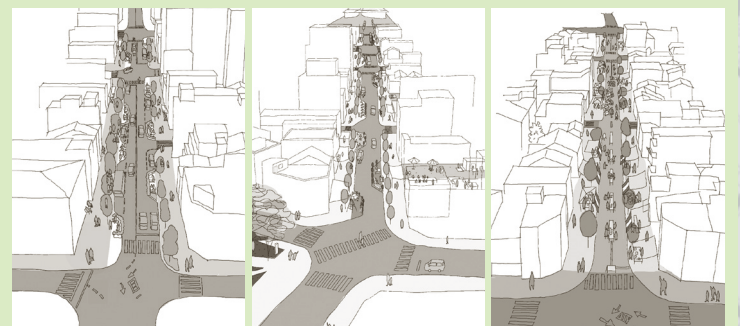


太陽の城跡地から河川敷のイメージ

QP-7

道路再構築事業

康生通り約300m区間で、規制緩和による認定団体を組織することで、オープンカフェ、広告版設置などの道路空間を活用する民間取組みの事業化と、それに併せた道路空間再配置を含めたプロジェクト



康生通りの活用イメージ

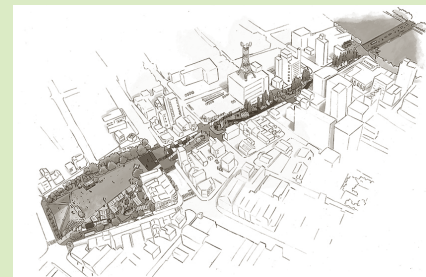
連尺通りの活用イメージ

二七市通りの活用イメージ

QP-5

PPP活用公園運営事業 (籠田公園・中央緑道)

ステージなどを有する約7,000m²の籠田公園、道路再構築により拡幅する約6,000m²の中央緑道での、地元団体や公園管理・活用に関係する民間事業者などと共に、公園で稼ぎ、公園に還元する組織・仕組みづくりに挑むプロジェクト



籠田公園・中央緑道の再整備イメージ

QP-2

PPP活用公園運営事業 (桜城橋橋上広場・橋詰広場)

公園人道橋の桜城橋橋上広場とその橋詰広場約2,800m²の公園用地を活用し、Park-PFIによる民間活力を導入し、休憩所、飲食店などを整備、運営するプロジェクト



橋上広場・橋詰広場イメージ

QP-3

PPP活用拠点形成事業 (東岡崎駅北東街区)

名鉄東岡崎駅に隣接する約6,600m²の事業用定期借地権を設定した市有地で、商業等の都市機能を担う民間事業者を核に、河川空間を含め一体的に活用するプロジェクト



東岡崎駅北東街区完成イメージ



○ 既存拠点

● 新規拠点

||||| 拠点間動線

—— 主要回遊動線

QURUWAプロジェクト



QURUWAの未来の歩き方

社会実験「MeguruQuruwa」の実施に先立って、本フォーラムでは社会実験のねらいや乙川リバーフロント地区の将来像の仮説を提示し、当日のチェックポイントや楽しみ方をお伝えしました。前半に西村浩氏に社会実験の意義をお話いただき、後半のパネルディスカッションでは、社会実験の先にある暮らしのイメージを広げていただきました。

パネリスト

清水義次 | Yoshitsugu Shimizu
建築・都市・地域再生プロデューサー/
アフタヌーン/サエティ代表 / 3331アーツ千代田代表

泉 英明 | Hideaki Izumi
有限会社ハートビートプラン代表取締役 / 北浜水辺協議会理事

西村浩 | Hiroshi Nishimura
建築家 / クリエイティブディレクター /
株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役/
オン・ザ・ルーフ株式会社代表取締役

モデレーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura
東京藝術大学美術学部建築科准教授 / RFA 主宰 /
おとがわプロジェクト デザインコーディネーター

日時: 2017年9月30日[土] 14:00 - 16:00
会場: 岡崎市図書館交流プラザ
りぶら会議室 301・302

欲しい暮らしは 確かめながら作ろう

西村 | 行政も市民も僕ら専門家も、誰も経験したことがない「人口が減ってスポンジ化していく」という状況において、「これをやったら絶対成功します」ということは誰も言えないわけです。ポイントは「確かめながら」やるということです。社会実験は、とにかく多くの市民の方が参加してやってみて、みんなで「こういう社会になったらいいよね」ということを確かめ合うために行います。

社会実験とイベントの違い^{〔図1〕}

西村 | イベントは非日常的で一時的です。社会実験は、その先の日常だとかこれからの暮らしをつくっていくためのファーストステップになります。イベントの目標は、集客数や来場者の満足度が評価軸になりますが、社会実験は、運営する側が行ったことを継続していけそうか、お金を稼ぎながらこのまちを支えることができ



そうかが問われます。今回の社会実験では拠点と拠点を回遊動線で繋ぐため、歩道を広げて歩く環境を整えたり、レンタサイクルを用意したり、さらにボンネットバスを走らせて巡らせる計画もあります。人が巡るようになると、このQの字の回遊動線に面してる不動産の価値が上がっていきます。「ここで店をやりたい」という機運が高まって、この周辺にお店を出す人が増えてくると、続いてQの中心や周辺に波及していきます。そのファーストステップとなるのが今回の社会実験なんです。

新しくできる公共空間を使いこなす人を増やしていく

藤村 | おとがわプロジェクトはちょうど今から二年半前の2015年にスタートした五ヶ年のプロジェクトです。今日の9月30日というのは、前半二年半のちょうど折り返し点ということで、これから残り二年半でプロジェクトの全貌が明らかになります。整備が進み、人道橋や中央緑道など、QURUWA上に具体的に風景として現れてくるのにあと二年半あります。今回の社会実験はちょうど後半戦の最初の山場で、ここで二年半の内に新しくできる公共空間を使いこなす人を増やしていく、そういう大事な試みなのではと思います。

-	イベント	社会実験
特徴	非日常・一時的	日常的・持続的
目標	集客数・盛り上がり	持続性・ライフスタイルの実現
評価軸	来場者の満足度	運営の体制・仕組み持続性 (運営側の評価)

図1 | 社会実験とイベントの違い

公共空間を使った 豊かな暮らし方を思い描く

清水 | このQURUWAを含め、岡崎の中心部の公共空間は実に豊かなのであまり使われておらず惜しい。りぶらの中に来ると何曜日の何時に来ても人がいっぱいいますが、外の芝生に人がいるところをほとんど見たことがありません。りぶらには年間140万を超える人々が来ています。これがQURUWA上や周囲のまちに染み出すようになったら、岡崎のまちなかでの暮らしは激変するのではないかと思います。岡崎市民の方々も私のようなよそ者も含めて、このQURUWA上に広がるこの豊かな公共空間を使った豊かな暮らし方を思い描くこと、これが社会実験の意味ではないかなと思います。

建物の内と外をつなぐ

清水 | 岩手県柴波町は人口わずか33,000人の農業のまちです。ここに、県の住宅供給公社が開発したものの、単なる雪捨て場になってしまった10.7haの残地がありました。町役場や図書館をつくる計画もありましたが、財政が逼迫してできなくなってしまいました。これを、民間の投資を誘発する公民連携の手法を用いて、まちの新しい中心にしようという試み「オガールプロジェクト」が2007年から始まり、ちょうど11年を迎えたところです。この真ん中に整備された幅30m、長さ300mの広場と、それを取り囲む形で民間と公共の投資により整備された施設からなるオガール広場は、本当に新しいまちの中心になりました。ここに行くと、朝から晩までいつも人がいる風景が広がっています。オガール広場に面して小さな図書館がありますが、これがメインの集客施設になっ

ています。ここでは、図書館の維持管理費を民間テナント棟の土地代と固定資産税などから捻出するというやり方をしています。大事なのは、建物の窓が全部フルオープンで広場と繋がる構造になっていることで、図書館のロビーは週末にコンサートやマルシェなどが開かれています。どうしてりぶら周辺の公共空間をもっと市民が活用できるようにしないのでしょうか。籠田公園では、素敵な風景が年に何日かは見られますが、これがほとんど365日いろんな形で昼も夜も使われる公園として、岡崎の中で一番賑わう公園になって欲しいと思います。そして籠田公園からこのりぶらに繋がる連尺通り、シビコを超えてまっすぐここに人が流れるようになり、QURUWA全体に人が巡るようになったら、市民の方々の暮らしがさらに素敵になるのではないかと思います。

55ものプログラム実施者の可能性

泉 | 今回の社会実験に55の団体の方々が出られるというのはすごいことです。これらが同時に行われることでまちの未来がイメージできるのではないのでしょうか。将来的には、55プログラムを100や200にしようということより、一つひとつのプログラムを小さくとも質を高くしていくことが大切かなと思います。また社会実験を通じて、周囲の地権者の二人でも三人でも屋外空間と建物をセットで活かして何かしてみようという方が現れると日常の風景になるので、このエリアが劇的に変わります。私に関わっている山口県長門湯本温泉では、社会実験に参加したお店がオープンしたり、他の地域から移住して商売しようという人が現れたり、社会実験などを通じてまちが動いてることが外に伝わることで、新たな動きを誘発する効果が出ています。社会実験で大切なのは、事業者の方がリスクを持ってここで勝負をしようと思えるような実績や関係性をつくることだと思っています。清水 | この55のプログラムを担う人達は、実は「情報の生産者」です。情報の生産者が継続的に質の高い情報発信を集団で続けていく、これがシティプロモーションの肝ではないかと考えます。質の高い情報が多くなると、必ず比例して集客が生まれてきます。まちづくりは情報とともにあり。このQURUWAの取り組みをシティプロモーションの活動と組み合わせて展開していって欲しいと思います。これからの展開に大いに期待しています。

Meguru Quruwa

主要回遊動線QURUWAを5つのエリアに分け、それぞれ目指したい未来像を設定し、それを実際にやってみて回遊性が生まれるかどうかを検証する社会実験 MeguruQuruwa。あいにくの天気ながら、日本各地で語り草となった大規模社会実験の概略をレポートします。

日時: 2017年10月28日[土]
当日の天気: 曇りのち雨
実施プログラム数: 36
来場者数: 約3,000人

検証項目

1 | 公共空間の新しい使い方

エリアの価値を高めるために、道路や公園、河川といった公共空間をどのように使ったら魅力的になるのか、民間事業者・市民(プログラム実施者)による「将来、こんな暮らしを実現したい」という想い・アイデアを実現し、その効果を検証。

2 | りぶらからのにじみ出し

1年に145万人(1日4-5,000人)の来館者を、りぶらからまちなかへにじみ出させることで、回遊の起点とする。そのために、周辺の公共空間を使って広場のような場所をつくり、にじみ出しの効果を検証。

3 | 回遊性の検証

どうしたら「歩いて楽しく、自転車で回れて、車でも来やすいまち」が実現できるか、主要回遊動線QURUWA上の公共空間の新しい使



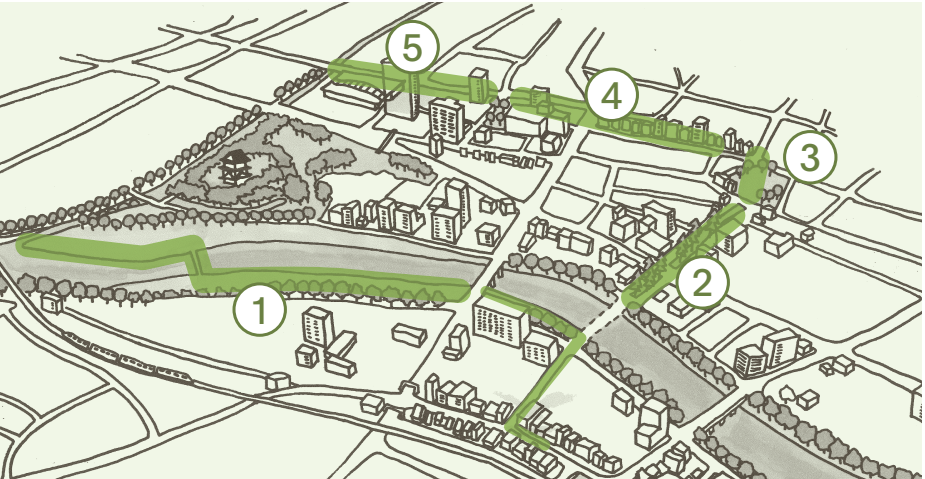
い方や、回遊バスやシェアサイクルの実施を通じて、その効果を検証。

実施調査

実施調査としては、「公共空間を使いこなす意義や使い勝手を問う」プログラム実施者へのアンケート調査、「エリアごとに社会実験の狙いに対する評価を検証する」来場者へのアンケート調査と「来街手段、移動手段、回遊経路を検証する」来場者パーソントリップ調査、「近隣への影響や住民の評価を検証する」住民へのアンケート調査を行ないました。

実施エリア^{〔下図参照〕}

約3kmの主要回遊動線QURUWA上に5つのエリア^{〔①乙川河川敷(河川・道路)、②中央緑道(道路・公園)、③籠田公園(公園)、④連尺通り(道路)、⑤りぶら前・シビコ西広場(道路・駐車場・広場)〕}を設定し、各エリアで上記検証項目に基づくねらいを定め、プログラムを実施しました(延べ公共空間実験面積12.5ha)。当初計画された55のプログラムのうち、雨天のため19が中止となり、36のプログラムが実施されました。



実施エリア

乙川河川敷エリア

水辺と暮らす
「おとがワ!ンダーランド」

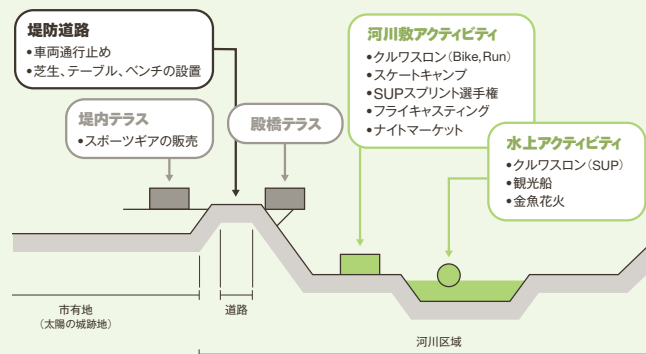
①

「ねらいと結果」

堤防道路を歩行者空間化し、かわまちづくり民間事業を実施する河川敷へのアクセス性や視認性を高め、河川敷や水面のアクティビティとの一体的利用を図りました。河川と道路、地先の市有地を有効活用するプログラムはまんべんなく支持が得られ、一体的利用の有効性が検証できました。

「当日の内容」

*雨天で中止になったプログラムも含む



行政による社会実験の場づくり

- 堤防道路を車両通行止めにし、人工芝やテーブル・椅子を設置した休憩スペースや水辺を眺める視点を創出
- 堤防道路に接し、水辺を楽しむ演出として殿橋テラス、太陽の城跡地への堤内テラスを設置

民間によるプログラム実施(6プログラム)

- 広大な河川敷を生かすアクティビティ (スケートパーク、アウトドアオフィス)
- 水辺のアクティビティを楽しむスポーツギア (スポーツバイク、スタンドアップパドルボード)を扱うお店の出店 (堤内テラス)
- 殿橋テラスを利用した飲食店の出店
- テーブル・椅子の用意



堤内テラス

中央緑道エリア

(仮称)岡崎セントラルアベニューの
未来をのぞく

②

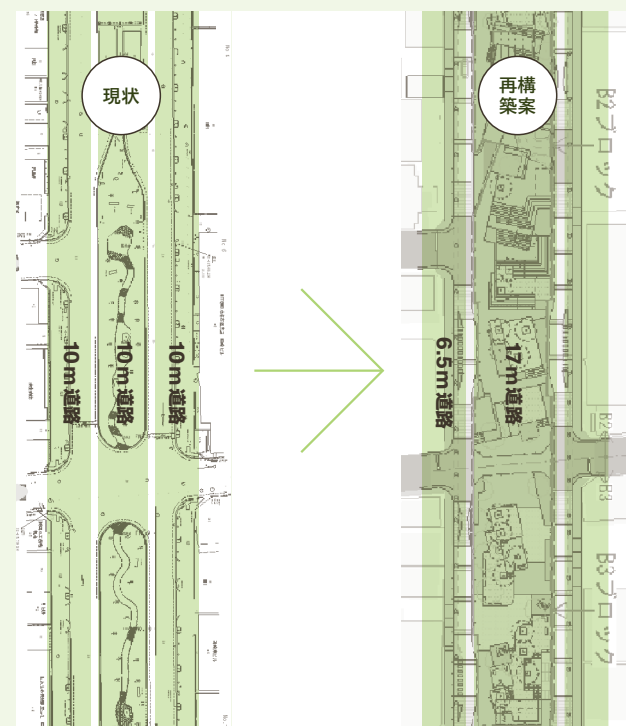
「ねらいと結果」

道路再構築の整備では、下図のとおり、道路幅を減らし歩行者を通す緑道幅を増やすこととしています。このため、沿道関係者の提案により、実際に車道を狭くすることで車の通行への影響について検証しました。アンケートからは、歩行者優先の道路幅が評価されており、整備予定のプランもおおむね支持されていることが読み取れます。

「当日の内容」

行政による社会実験の場づくり

- カラーコーンを設置して、歩行者空間が拡大された整備後の車道幅を再現



車道と歩道の道路再構築イメージ



中央緑道

籠田公園エリア

暮らしを彩る公園日和

③

「ねらいと結果」

詳細設計が進められている籠田公園において、整備後の活用イメージづくりと将来実際に活用する意向を持つ事業者による活用法の検証を行いました。当日は、非日常的なにぎわいというより、日常生活の質を高める使い方が提示され、雨天にもかかわらず来場者が多く、滞留時間も比較的長く、多くの人に受け入れられていたといえます。

「当日の内容」

行政による社会実験の場づくり

- 雨除け用のテント、休憩スペースとして、椅子とテーブルの設置

民間によるプログラム実施(6プログラム)

- こだわりの食材や日用品のマルシェの開催やDIYの体験プログラム(店用のテントやテーブルも用意)、プランターを使った都市型菜園など
- 未来の籠田公園・中央緑道の模型を展示など



こだわりの食材や日用品が並びました



籠田公園テント内

連尺通りエリア

通りはまちの社交場だ!

④

「ねらいと結果」

回遊や滞留を促す歩行者優先の歩車共存を図るストリートデザインのモデルとして、①パークレット＋一方通行 ②縦列駐車(荷捌き)＋一方通行 ③植樹帯を利用したベンチ等の配置 ④軒先スペースの活用の4パターンを表現。今回は車両を通しながらではなく、通行止めにした上で模擬的に検証した。その結果、道路再構築により「まちに活気が生まれる」「歩いて楽しい」、道路に面した建物の軒先を使うことで「お店に入りやすくなる」という効果が生まれていました。

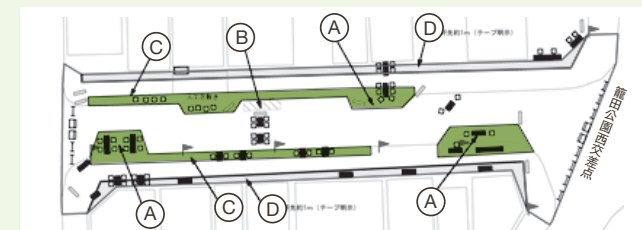
「当日の内容」

行政による社会実験の場づくり

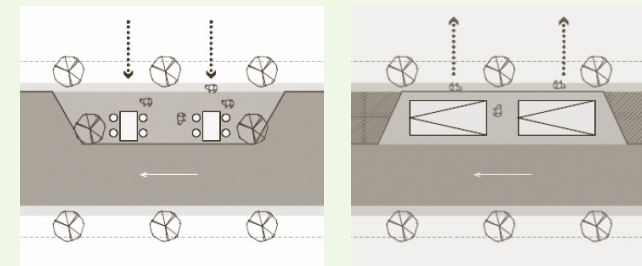
- 籠田公園北西交差点から連尺通1丁目交差点まで車両通行止めとし、人工芝を敷きつめて歩行者空間化。休憩スペースとしてテーブルや椅子を設置。

民間によるプログラム実施(5プログラム)

- 個性的な飲食や物販などの出店。沿道商店街による軒先を利用した休憩処や客席の設置と、雨天時における出店者に対する車庫スペースの提供

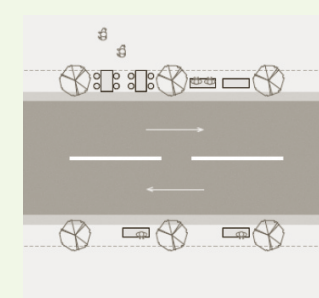


実施場所



① パークレット＋一方通行

② 縦列駐車(荷捌き)＋一方通行



③ 植樹帯を利用したベンチ等の配置

④ 軒先スペースの活用

りぶら前・シビコ西広場エリア りぶらの前に広場をつくろう

⑤

【ねらいと結果】

りぶら周辺の公共空間を活用して、1日平均4-5,000人の来館者がまちへにじみ出し、シビコや連尺通りへの流れが生まれるかを検証しました。りぶらエントランスから、プロムナード、シビコ西広場に魅力的なコンテンツを設置することで、継続的ににじみ出しを創出することが可能であることが実証されました。

【当日の内容】

行政による社会実験の場づくり

- りぶら東側の道路と東駐車場1、シビコにつながるプロムナードを芝生広場化し、休憩用のテントやテーブルを設置

民間によるプログラム実施(13プログラム)

- 物販やワークショップのブース(テント、テーブル等の設置)、歩きながら楽しめる屋外ギャラリー
- パン屋やお菓子屋など、店舗用の什器を設営し、こだわりの飲食の場を提供
- 本との出会いを演出する展示(りぶら館内)、周りの商店と連携したマーケット(シビコ西広場)



りぶらおよび周辺の公共空間の活用イメージ：
岡崎市中心市街地再活性化拠点整備基本計画(H15年度)より作成



りぶら前(駐車場1)

エリア全体 OPEN COLLABORATION CAMP ーまちは出会いの場ー

行政による社会実験の場づくり(3プログラム)

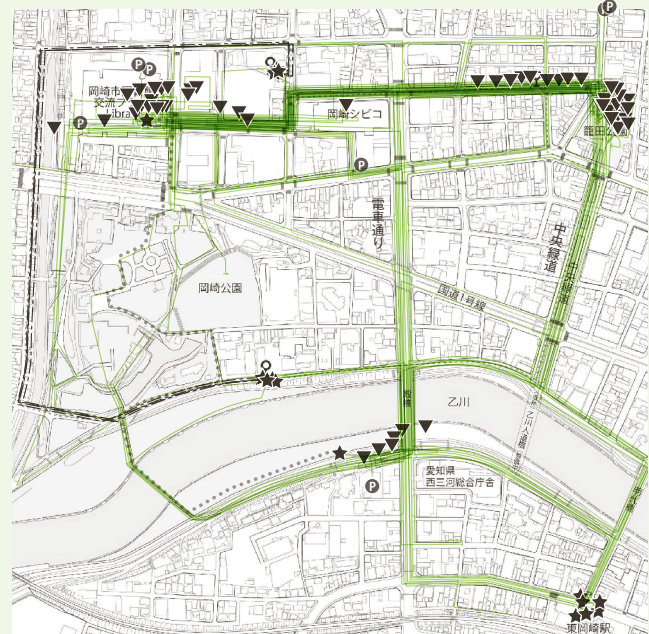
- QURUWA上でのフラッグの設置
- QURUWAを回遊するボンネットバスの運行
- レンタルサイクルの実施

民間によるプログラム実施(3プログラム)

- 高校生による突撃インタビュー
- 「QURUWAの1日」ショートムービー撮影
- アウトドアオフィス用のテントの設置

パーソントリップ調査(回遊性の検証結果)

- QURUWA上での回遊動線が形成されました。
- 南北の動線は、中央緑道と電車通りに分かれているが、人道橋整備により変わるものと思われます。
- りぶら前、連尺通り、籠田公園のように民間活用したプログラムを実施したところでは、特に回遊が見られたことから、QURUWA上の拠点などで公民連携の取り組みを行うことは、回遊の実現に有効と考えられます。



- 徒歩
- 車
- 自転車
- バス
- 駐車場
- 乗り換えポイント
- 良かった立ち寄りポイント

ワークショップ 公共空間活用の 担い手育成 ワークショップ

社会実験 MeguruQuruwa に向けて、市民、民間事業者を対象に、公共空間活用の担い手を発掘・育成を目的として行われました。また、社会実験後には、フィードバックワークショップが行われ、出展者やボランティアサポーターから意見を集約しながら、今後の展望についての話し合いが行われました。



キックオフワークショップ | 社会実験の背景や目的を参加者に共有し、やりたいことや関わり方を話し合いました。



フィードバックワークショップ | 社会実験の検証結果を共有し、参加者による意見交換を行いました。

キックオフワークショップ

日時：第1回2017年7月17日[日] / 第2回2017年7月20日[木]

場所：図書館交流プラザりぶら3階 会議室
参加人数：第1回40名 / 第2回42名

リーダー会議

日時：2017年8月10日[木] 15:00-17:00
場所：一隆堂読書室2階 | 参加人数：12名

エリア別会議

【りぶら前・シビコ西広場調整会議】

日時：2017年9月14日[水] 12:00-14:00
場所：グラスパークビル2階 | 参加人数：11名
【連尺通り調整会議】

日時：2017年9月24日[日] 10:00-12:00
場所：一隆堂喫茶室2階 | 参加人数：5名

【籠田公園調整会議】

日時：2017年9月29日[金] 11:00-13:00
場所：森の花畑 | 参加人数：7名

【中央緑道調整会議】

日時：2017年10月5日[木] 17:00-19:00
場所：グラスパークビル2階 | 参加人数：7名

最終調整会議

日時：2017年10月17日[火] 18:30-20:00
場所：りぶら会議室301 | 参加人数：44名

フィードバックワークショップ

日時：2017年11月28日[火] 18:30-20:30
場所：図書館交流プラザりぶらホール
参加人数：34名

キックオフワークショップ	7/17,7/20
リーダー会議	8/10
エリア別会議	
りぶら前・シビコ西広場調整会議	9/14
連尺通り 調整会議	9/24
籠田公園 調整会議	9/29
中央緑道 調整会議	10/5
最終調整会議	10/17
社会実験 MeguruQuruwa	10/28
フィードバックワークショップ	11/28



最終調整会議 | 5つのエリアや全体の実施内容を共有し、改めて社会実験の目的を確認しました。

乙川リバーフロントフォーラム 動き出す、 QURUWA

10月の社会実験MeguruQuruwaを経て、これからの乙川リバーフロント地区における公民連携まちづくりの道標となる「QURUWA戦略」が策定されました。清水、泉両氏より、国内外の公民連携により実現した先進事例の紹介も交えて、QURUWAで実現したい未来の風景について具体的に展望しました。

パネリスト

清水義次 | Yoshitsugu Shimizu
建築・都市・地域再生プロデューサー/
アフタヌーン/サエティ代表 / 3331アーツ千代田代表

泉英明 | Hideaki Izumi
有限会社ハートビートプラン代表取締役/
北浜水辺協議会理事

モデレーター

藤村龍至 | Ryuji Fujimura
東京藝術大学美術学部建築科准教授 / RFA 主宰/
おとがわプロジェクト デザインコーディネーター
日時: 2018年3月21日 [水・祝] 14:00-16:00
会場: 岡崎市図書館交流プラザ
りぶら会議室 301・302

藤村 | 他の地区を参考にしながら、QURUWA全体や各エリアでどのような将来像を目指すのか、具体的にイメージしていきたいと考えています。QURUWA戦略の先にあるこのまちの未来について泉さん、清水さんの順でお話していただきたいと思います。

未来のまちの姿

泉 | 私たちは今、QURUWA上の乙川全体で、地域にお住まいの皆さん、地権者、水上アクティビティなどの「自分が責任を持ってこれがしたい」という事業者や利活用したいという20名強の方々と岡崎市と、どのような将来像を描くのかについて話し合い「おとがわエリアビジョン」として官民のプロジェクトをまとめています。

社会実験「MeguruQuruwa」では、河川敷と堤防道路、そこに面した土地を一体的に使うことが評価されましたが、それを踏まえ、乙川沿いでは公共の土地を使った拠点づくりが同時に進行しています。東岡崎駅前の北東街区では、駐輪場だったところがホテルやカフェ、商業施設に変わります。太陽の城跡地は、低層のホテルや水上アクティビティの基地に、人道橋から中央緑道につながるかわしん跡地も民間事業者により魅力的な場所に生まれ変わっていきます。

清水 | 籠田公園からりぶらまで歩いてみると、さほど距離感を感じません。もしその間に面白いまちのコンテンツが散りばめられたら、さらにその距離感は縮まります。籠田公園からりぶらに向かう康生通り、連尺通り、二七市通りの3本の通りを車のためではなく、人のための街路にする検討が進められています。

りぶらには年間140万人を超える来館者がいますが、ほとんどの人々が車・バスで来館し、そのまま帰ってしまいます。この状況を変えるために、現在の駐車場を広場化して、りぶらからまちにじみ出ていく流れをつくり、康生通り、連尺通り、二七市通りを通して籠田公園につながると、歩きたくなる連続的な空間ができるのではないかと思います。

2年前にできた南池袋公園は、面積としては籠田公園とは変わらないのですが、日常的に人々がピクニックしている光景を見ることができません。籠田公園も、イベントのためではなく、そんな日常のための公園になるとよいと思います。中央緑道は震災復興でつくられた岡崎の象徴的な通りですが、歩いている人はほとんどいません。新たな計画では、人道橋、かわしん跡地と共に、岡崎市民のシンボルとなるような変化が生まれそうです。こうした公共空間の改変だけでなく、民間の土地でも、例えば駐車場の集約化や芝生広場化、店舗化によって収益を上げつつ、市民生活も便利で豊かになるような取り組みを起こしていく必要があります。

ポートランドに学ぶ

岡崎の中心部のこれからに参考になるのは、アメリカのオレゴン州ポートランドです。ポートランドには、乙川と同じようにウィラメット川という川が流れています。河畔の公園では、いつでも人が絶えません。パークヨガを行う女性たちがたくさんいます。乙川の河川敷もいずれこのような光景が出現します。

都心の公園では、オフィス街にも関わらず平日午前中にたくさんの親子が遊んでいます。職・住・遊・子育てが、すべて近接しているまちが



こんな風景をつくり出します。商業だけのまち、オフィスだけのまちでは面白くありません。

ポートランドでは2日に1回はファーマーズマーケットが開かれています。岡崎の周囲にも豊かな農地がたくさんあります。QURUWA上でポートランドのような豊かなファーマーズマーケットが行われるようになって欲しいと思います。ポートランドのファーマーズマーケットの食材は本当においしくて、オーガニックな食材が市民を健康にしてくれるのです。

公共交通機関は重要なテーマですQURUWA戦略に、コミュニティ交通を含む公共交通機関の「リデザイン」が連携することが、暮らしやすさを創り出すカギとなります。ポートランドではトラムやバスがとても普及しています。そして自転車街中で見かけます。駐輪場はステンレスパイプとチェーンによる最低限の設えで十分です。駐輪場整備というと集約型のものが多いですが、こうしたこれは分散型の方が圧倒的に合理的です。

これからの都市観光・観光産業の真髄は、もはや名所旧跡を見に行くというものではありません。岡崎市民の素敵な生活そのものが観光の目玉となります。岡崎に二泊三泊して、岡崎の生活を味わいつくすという形が岡崎の近未来の観光像にふさわしいのではないのでしょうか。

藤村 | 公・民のそれぞれの担い手の役割について、泉さんは大阪で「水都大阪」をはじめ非常に進んだ公民連携のプロジェクトを進めてこられました。今年度は山口県の長門湯本の温泉街の再生プロジェクトも携わっていらっしゃいます。泉さんからまず公民の役割についてお聞かせください。

民間の動きに合わせた公共投資

泉 | 水都大阪では、港湾や水路などの活用さ

れていない空間と、アイデアやお金を持っている事業者、「これをやりたい」という市民団体等を結びつけるため、「水都大阪パートナーズ」という民間の中間組織が、事業者や市民団体に利活用の意向を聞いたり、公募を行ったりしました。公共投資ありきで民間を呼ぶのではなく、民間でやりたい事業や動きを作った上で、行政が規制緩和や限定的な公共投資をするという形です。

大阪市の西端にある「中之島ゲート」では、当初参入してくれる事業者がいなかったため、期間限定の社会実験で、事業の可能性を2年間探った結果、興味を示す事業者が現れ、対岸に中央卸売市場があるという立地を活かして「中之島漁港」という常設の市場ができました。対岸には社会実験に参加した事業者が投資して常設の船上レストランもできるなど、事業性が厳しそうな厳しいエリアでも、段階的に社会実験を通じてエリアポテンシャルを模索し、可視化することで、民間投資と行政の環境整備を引き出し空間が生まれ変わります。

長門湯本温泉では、大規模なホテルの跡地に、星野リゾートを誘致することになりました。しかし、星野さんは一つの敷地の整備だけではエリアの価値が高まらないため、周辺のまちの将来像と一緒に描くことを条件に参入を決めました。本日岡崎市が発表した「QURUWA戦略」のように、まちの将来像を定めた戦略を、長門市では投資を予定している私企業の星野リゾートに任せただけです。投資事業とそれが成立する面的条件のプランづくりを投資者に任せ、その提案に基づいて必要となる公共投資や規制緩和をするという逆転の発想です。

藤村 | 清水さんのお立場から公と民の役割についてお話しお聞かせください。



市民主体の公民連携の形

清水 | 公民連携のまちづくりというと、大きな公共空間をどうするのかの話が中心になる印象を受ける人もいますが、公と民がそれぞれの役割でできることをしっかりとやるということも公民連携において重要です。

1つの事例として大阪府大東市に「大東元気でまっせ体操」という活動があります。高齢者が週に1回以上集まって体操するという活動に、総計120グループ、3,000人近い人が参加しています。この体操がきっかけとなり、カラオケをするコミュニティや、介護扶助を行うボラ



ンティアグループが生まれてきています。「大東元気でまっせ体操」のように、住民主導で住民の健康が増進し、介護費が減少し、豊かな市民生活に投資できるという仕組みです。

もう一つ、「3331アーツ千代田」は中学校跡地を賃借し、従業員25名の人件費をまかない、年間1,100イベントを行い、80万人から90万人の集客をする民間の自立経営をしている文化施設です。岡崎でも公共事業ではなく市民が経営力・企画力を生かして事業を行うことができるはず。収益を上げ、納税をし、市民サービスのために再投資していく、ますますそのような市民の力で事業を継続させることが必要かと思っています。

藤村 | 岡崎の場合、総合的な再投資を中心市街地にしようとチャレンジしています。このチャレンジは5年間の時限がついておりまして、現在ちょうど3年間の終わるところです。来年の今頃ちょうど、もう少し全体像が見え最後の総仕上げに向かう段階になっているかと思います。その時により多くの方に、まちづくりの方向を見ていただいて、岡崎が目指す観光産業都市がどれほど実現できるのかまた議論できればと思います。



社会実験

おとがワ!
ンダーランド

期間:2017年7月20日[木]~2018年1月31日[水]
* 殿橋テラス:2017年9月23日[土]~2017年11月26日[日]
場所:乙川河川敷
主催:乙川リバーフロント地区かわまちづくり協議会
運営:おとがワ!ンダーランド実行委員会

豊かな活用の風景が生まれる水辺空間の創出、活用ルールの明確化、さらには民間による自立的な運営体制の構築等を目標に行う活用社会実験。2年目はより日常的な活用を生み出すことを目標に、実施期間を約半年間に広げ、24の事業者・団体による41のプログラムが行われました。定期開催のプログラムが増え、定常的な賑わいが生み出されたとともに、実施者同士が連携、相乗効果を生み出すプログラムが生まれる等、乙川に季節を通した新たな活用の風景が生み出されました。

社会実験

岡崎泰平の祈り

開催:2017年11月25日[土]
放流数:約20,000個 | 来場者数:28,000名

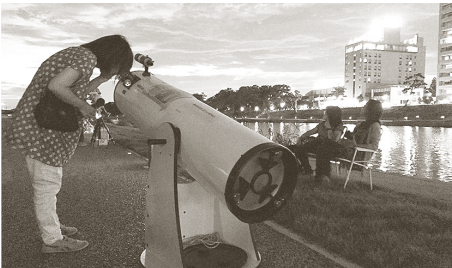
青く光るLEDの球「いのり星®」を乙川の川面に浮かべ、幻想的な水辺空間を演出する「岡崎泰平の祈り」は、特例により民間事業者の営業活動が可能となるかわまちづくりの情報発信プロジェクト。2017年は、地元の企業やまちづくり団体、大学など21団体により組織された実行委員会準備会が75団体からの協賛金により安全施設等を準備すると共に、放流作業等への人員協力により運営しました。



夏も舟に乗ろう | 総来場者:615名



新鮮野菜の朝市[毎月第1・第3土曜日] | 来場者計:200名



乙川星空観望会[毎月第4土曜日] | 来場者計:350名



Okazaki Summer Tribe 2017 | 来場者:437名



乙川ナイトマーケット[毎月第4土曜日] | 来場者計:1,300名



殿橋の橋詰を使ったオープンカフェ、殿橋テラス

プログラムレポート

アウトドアリビングな風景をつくろう!

- #01 | 本とお昼寝編
日時:2017年11月19日[日]13:00-16:00
場所:りぶら東側ウッドデッキ、プロムナード
- #02 | まちで集めるお昼ごはん編
日時:2017年12月23日[土]11:00-15:00
場所:シビコ西広場
- #03 | まちで集めるランチ編
日時:2018年2月17日[土]10:00-14:00
場所:籠田公園
- #04 | クイズラリー編
日時:2018年2月24日[土]11:00-13:00
場所:りぶら東側プロムナード&りぶら
- #05 | ヨガとお茶会編
日時:2018年3月2日[金]14:00-15:00
場所:りぶら北側芝生広場
- #06 | 芝生の上で読み聞かせ編
日時:2018年3月3日[土]13:30-15:00
(*読み聞かせは13:30-14:00)
場所:りぶら北側芝生広場

公共空間活用のイメージを市民に伝えるために、「こうなったらいいな」というシーンを撮影、発信しました。また雨天のため、社会実験 MeguruQuruwa で実施できなかったアクティビティを改めて実施、検証を行いました。11月から3月まで計6回行い、未来の1日が「こうなったらいいな」という様々なシーンが生まれました。



#01 | 本とお昼寝編

3つの会議体

デザイン会議/
公民連携調整会議/推進会議

公民連携まちづくりを推進するために、H28年度から引き続き「デザイン会議」「公民連携調整会議」「推進会議」という3つの会議を開催しました。

デザイン会議

QURUWAプロジェクトへの提案・助言・評価とともに、公民連携と都市デザインのクオリティコントロールを行うため、まちづくり専門家と主要まちづくり5部局等から構成された戦略会議体

メンバー

[乙川リバーフロント地区まちづくり

デザインアドバイザー]

清水義次 | アフタヌーンソサエティ代表

藤村龍至 | 東京藝術大学准教授

泉英明 | 有限会社ハートビートプラン代表取締役

[ランドスケープ専門家]

長谷川浩己 | オンサイト計画設計事務所

[民間事業者]

[岡崎市職員]

場所:岡崎市役所分館3階会議室

内容:

- QURUWA戦略を進めるための課題の洗い出しと議論を行った上で、個別議題について議論。
- 「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画」の概要とリーディングプロジェクトの内容を議論。
- 社会実験「めぐる、QURUWA」のアンケートと評価の仕方を確認。

第3回

日時:2018年1月30日[火]13:30-15:00

場所:岡崎市役所分館3階会議室

内容:

- 「おとがワエリアビジョン」の内容を確認。
- 「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画」の構造と縦横断的な取組について議論。

第4回

日時:2018年2月15日[木]13:30-15:00

場所:岡崎市役所分館3階会議室

内容:

- 「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画」の縦横断的な取組について議論。

推進体制

公民連携調整会議
政策連携・庁内調整
[メンバー]
• RF計画関係14課
• まちづくり組織

連携

公民

デザイン会議
都市戦略の構想・提案
[メンバー]
• 主要まちづくり担当課
• 専門家
• 民間事業者

提案

公民

推進会議
意志決定・承認
[メンバー]
• 市長
• 副市長
• 関係部課長

公民

公民連携調整会議

QURUWA戦略、および、QURUWAプロジェクトの進捗管理、および、庁内調整機関

メンバー

[まちづくり専門家]

清水義次 | アフタヌーンソサエティ代表

藤村龍至 | 東京藝術大学准教授

[まちづくり組織]

岡崎活性化本部、株式会社まちづくり岡崎、

岡崎まち育てセンター・りた

[岡崎市]

企画課、広報課、行政経営課、文化振興課、市民協働推進課、廃棄物対策課、ごみ対策課、商工労政課、観光推進課、都市計画課、まちづくりデザイン課、交通政策課、拠点整備課、乙川リバーフロント推進課、公園緑地課、道路維持課、道路建設課、河川課、建築指導課、建築課、水道工事課、下水工事課、社会教育課

[関係者]

第1回

日時:2017年8月8日[火]13:30-15:30

場所:岡崎市役所分館202号室

- 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり社会実験の内容等について
- 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画について

第2回

日時:2017年12月25日[月]14:00-16:00

場所:岡崎市役所分館3階大会議室

- 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり社会実験の成果確認
- 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画について

推進会議

QURUWA戦略の推進に係る意思決定機関

メンバー

市長、両副市長、総合政策部長、財務部長、社会文化部長、環境部長、経済振興部長、都市整備部長、土木建設部長、建設部長、都市整備部拠点整備担当部長

各回

第1回:2017年5月15日[月]

第2回:2017年9月25日[月]

第3回:2018年3月19日[月]

PROJECT TIMELINE

BACK NUMBER

プロジェクトのタイムライン

*タイムラインは順次更新・修正

平成25年度

- 岡崎活性化本部による乙川リバーフロント地区基本方針策定のための提言書発表
- 岡崎市による乙川リバーフロント地区整備基本方針策定

平成26年度

- 乙川リバーフロント地区整備基本計画策定

平成27年度

- おとがわプロジェクト 発足 *おとがわプロジェクトとは...乙川リバーフロント地区整備計画の別称
- キックオフフォーラム開催
- 第1回シンポジウム開催
- デザインシャレット実施〔パブリックミーティング2回〕
- シャレット展示会開催
- おとがわキャラバン in 市役所開催
- 第2回シンポジウム開催
- おとがわキャラバン in 籠田開催
- 中間提言発表
- まちづくりワークショップ〔1〕開催
- おとがわキャラバン in りぶら開催
- おとがわキャラバン in 中央緑道開催
- まちづくりワークショップ〔2〕開催
- まちづくりワークショップ〔3〕開催
- グランドデザインフォーラム開催・「基本構想」〔市民提案〕
- グランドデザイン展示会開催

平成28年度

- 基本構想〔市民提案〕に対する市の対応方針
- おとがわ!ンダーランド
- デザイン会議スタート
- QURUWA FUTURE VISION
- QURUWA パブリックミーティング
- エリア再生連続シンポジウム
- まちのトレジャーハンティング@岡崎
- まちなか未来戦略フォーラム

平成29年度

- おとがわ!ンダーランド
- QURUWA FUTURE VISION
- 公共空間活用の担い手育成ワークショップ

- 乙川リバーフロントフォーラム
- 情報拠点設置
- 社会実験「MeguruQuruwa」
- 公共空間活用

- 乙川リバーフロントフォーラム
- 乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画〔QURUWA戦略〕とりまとめ

Vol.1

Vol.2

Vol.3

Vol.4

Vol.5

Vol.1

キックオフフォーラム
シンポジウム
デザインシャレット
中間提言書
〔収録〕

Vol.2

キックオフフォーラム
シンポジウム
デザインシャレット
中間提言書
〔収録〕

Vol.3

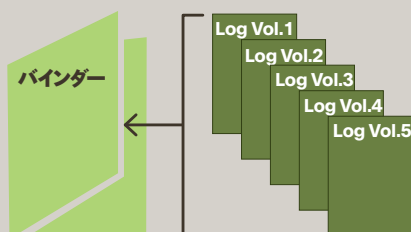
おとがわプロジェクトの
全体像
グランドデザインフォーラム
市民インタビュー
〔収録〕

Vol.4

おとがわプロジェクトの全体像
リノベーションまちづくり
かわまちづくり
基本設計ワークショップ
シンポジウム
まちのトレジャーハンティング
フォーラム
パブリックミーティング
3つの会議
〔収録〕

『OTOGAWA GRAND DESIGN Log』

本冊子は、配布するバインダーに挟み、
各号をまとめて保管下さい。



発行元：岡崎市
発行日：2019年3月
企画・編集：NPO法人岡崎まち育てセンター・りた
デザイン：刈谷悠三・角田奈央・neucitora
写真：奇天烈写真館、前田智恵美

問い合わせ先：
NPO法人岡崎まち育てセンター・りた
tel: 0564-23-2888
mail: info@otogawa.jp
web: http://otogawa.jp
Facebookは「おとがわプロジェクト」で検索

